

精神看護学実習 総合評価表 (100 点)

学生氏名

評価内容	評価基準	配点	自己	教員
1. 精神の疾患や障害が患者や家族の日常生活にどのような影響を及ぼしているかが理解できる。	1. 疾患の病態生理、治療、看護が理解できる。	3		
	2. 精神科病棟の構造・特殊性が理解できる。	3		
	3. 各種療法の目的・方法を理解し、対象の反応を考えることができる。	3		
	4. 対象の発達段階について考えることができる。	3		
	5. 言語的・非言語的コミュニケーションを活用し情報収集ができる。	3		
	6. 対象の健康な部分、日常生活に影響を及ぼしている部分をアセスメントできる。	3		
	7. 患者を支える家族の問題について考えることができる。	3		
2. 対象のセルフケア能力に応じた日常生活行動の援助ができる。	1. 対象と共に目標を設定し、個別的で具体的な看護計画を立案できる。	3		
	2. 対象の1日の過ごし方を考慮し、安全に計画が実施できる。	3		
	3. 実践した看護を対象の反応から評価・修正することができる	3		
3. 対象に必要な社会資源が理解できる。	1. 患者に必要な社会資源について考えることができる。	3		
	2. 患者を取り巻く各職種間の連携が理解できる。	3		
4. 人権保護の重要性を理解し、尊重する態度を取ることができる。	1. 人権保護を考えた環境の在り方について自分の言葉で表現できる	3		
	2. 患者を尊重した態度を取ることができる	3		
5. 患者-看護師関係の発展過程を通して自己洞察を深め、治療的な関りができる。	1. 人間関係における自己の感情や行動に気付くことができる。	3		
	2. 自己の中に生じた思考や感情を言語化し表現できる。	3		
	3. 患者—看護師関係における自己の経験を振り返り治療的な関りについて考えることができる。	3		
6. 疾患の各期の特徴を理解し、継続看護について考えることができる。	1. 精神科救急の特殊性と看護の実際が分かる。	3		
	2. 各時期の病棟の特徴、看護の実際が分かる。	3		
7. 地域で生活する対象者と対象者が生活する場を理解できる。	1. 利用している対象者の特徴を理解できる。	3		
	2. 地域で活動する場の役割を見学を通して述べるができる。	3		
	3. 保健医療福祉チームメンバーの役割が説明できる。	3		
8. 実習に向けて主体的に学ぶ取り組みができ、自己の課題を明確にできる。	1. 講義資料を整理・復習し実習準備ができる	2		
	2. 看護学生や看護チームの一員として責任のある行動がとれる。	8		
	3. 他者の助言が受けられる。	8		
	4. グループにおける自己の役割を意識した行動・言動が示せる。	8		
	5. 今後の自己の課題について述べられる。	8		
特記事項		欠課	遅刻	担当
		時間	時間	印

精神看護学実習Ⅰ 評価表 (75 点)

実習場所：三芳の森病院・埼玉精神神経センター

学生氏名

評価内容	評価基準	配点	自己	教員
1. 精神の疾患や障害が患者や家族の日常生活にどのような影響を及ぼしているかが理解できる。	1. 疾患の病態生理、治療、看護が理解できる。	3		
	2. 精神科病棟の構造・特殊性が理解できる。	3		
	3. 各種療法の目的・方法を理解し、対象の反応を考えることができる。	3		
	4. 対象の発達段階について考えることができる。	3		
	5. 言語的・非言語的コミュニケーションを活用し情報収集ができる。	3		
	6. 対象の健康な部分、日常生活に影響を及ぼしている部分をアセスメントできる。	3		
	7. 患者を支える家族の問題について考えることができる。	3		
2. 対象のセルフケア能力に応じた日常生活行動の援助ができる。	1. 対象と共に目標を設定し、個別的で具体的な看護計画を立案できる。	3		
	2. 対象の1日の過ごし方を考慮し、安全に計画が実施できる。	3		
	3. 実践した看護を対象の反応から評価・修正することができる	3		
3. 対象に必要な社会資源が理解できる。	1. 患者に必要な社会資源について考えることができる。	3		
	2. 患者を取り巻く各職種間の連携が理解できる。	3		
4. 人権保護の重要性を理解し、尊重する態度を取ることができる。	1. 人権保護を考えた環境の在り方について自分の言葉で表現できる	3		
	2. 患者を尊重した態度を取ることができる	3		
5. 患者-看護師関係の発展過程を通して自己洞察を深め、治療的な関りができる。	1. 人間関係における自己の感情や行動に気付くことができる。	3		
	2. 自己の中に生じた思考や感情を言語化し表現できる。	3		
	3. 患者-看護師関係における自己の経験を振り返り治療的な関りについて考えることができる。	3		
6. 疾患の各期の特徴を理解し、継続看護について考えることができる。	1. 精神科救急の特殊性と看護の実際が分かる。	3		
	2. 各時期の病棟の特徴、看護の実際が分かる。	3		
7. 実習に向けて主体的に学ぶ取り組みができ、自己の課題を明確にできる。	1. 講義資料を整理・復習し実習準備ができる	2		
		各実習場所		
	1. 看護学生や看護チームの一員として責任のある行動がとれる。	2		
	2. 他者の助言が受けられる。	2		
	3. グループにおける自己の役割を意識した行動・言動が示せる。	2		
	4. 今後の自己の課題について述べられる。	2		
特記事項		欠課 時間	遅刻 時間	

評価方法 1~6

3—指導の内容を理解し、自らの考えも含め言動に移すことができる。 2—指導内容が理解でき、言動に移すことができる。

1—指導内容の一部が理解でき言動に移すことができる。

0—指導内容が理解できず言動に移すことができない。

7

できたー2 おおよそできたー1 できなかったー0

精神看護学実習Ⅱ 評価表 (25 点)

実習場所：通所施設、継続支援施設

学生氏名

評価内容	評価基準	配点	自己	教員
1. 地域で生活する対象者と対象者が生活する場を理解できる。	1. 利用している対象者の特徴を理解できる。	3		
	2. 地域で活動する場の役割を見学を通して述べることができる。	3		
	3. 保健医療福祉チームメンバーの役割が説明できる。	3		
	各実習場所			
2. 実習に向けて主体的に学ぶ取り組みができ、自己の課題を明確にできる。	1. 看護学生や看護チームの一員として責任のある行動がとれる。	2		
	2. 他者の助言が受けられる。	2		
	3. グループにおける自己の役割を意識した行動・言動が示せる。	2		
	4. 今後の自己の課題について述べられる。	2		
特記事項		欠課	遅刻	
		時間	時間	

評価方法 1～6

- 3—指導の内容を理解し、自らの考えも含め言動に移すことができる。 2—指導内容が理解でき、言動に移すことができる。
 1—指導内容の一部が理解でき言動に移すことができる。 0—指導内容が理解できず言動に移すことができない。

7

できたー2 おおよそできたー1 できなかったー0